

二〇二二年度

Sr. 江角ヤス特待生選抜 入学試験問題

適性検査型Ⅰ（五十分）（全六ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 解答用紙は二枚です。試験開始の指示と同時に、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- 三. 試験開始後、問題冊子がそろっていないか、印刷がはつきりしないところがあったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点・記号も一字として数えなさい。
- 六. 問題文は上下二段になっています。



東京純心女子中学校

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(*印のついている言葉には本文のあとに「注」があります。)

わたしは、金野^{きんの}さんに会って、初めて「紙本^{しほん}・書籍保存修復士^{しよせきしゅうふくし}」という仕事を知りました。

日本には「紙本・書籍保存修復士」という資格はありませんが、とても専門的な知識と技術を必要とする仕事です。イギリスなどでは、「conservator＝コンサバター」とよばれ、図書館や資料館には、かならず紙本治療^{ちりょう}用の仕事場が設けられています。

金野さんは、わたしにくりかえし教えてくれました。

「①仕事の名前は、『紙本・書籍保存修復士』ですが、『修復』ではなく『治療』をしているのです」

「え？ 紙を『治療』するんですか？」

「ええ。本来『修復』とは、『こわれた部分を直して、元の状態までもどす』という意味です。でも、『治療』は、『傷^{いた}んだ資料を、次の時代へつなげる状態までもつていく』ことを意味します」

金野さんは、人にたとえて説明してくれました。

「人間の病気の治療と同じに考えてみてください。病気の前の状態に完全にもどすのではなく、これから先、一年でも二年でも長く、よりよい状態で生きていけるようにするのが、治療ですよ。人も紙も同じなんですよ」

わたしは、「人も紙も同じ」という紙に対する見方に、感心してしまいました

た。

金野さんは、おかしそうに笑いながら、こんなことも言いました。

「あなたはさぞかし本が好きなんでしょうね、とよく言われるんですけど、じつは、そこに書かれていることよりも、本の構造や紙が好きなんですよ」

紙が大好きというだけあって、金野さんは、西洋の古書であれば、紙の手ざわりで、その紙がいつの年代に作られたのかがわかることもあるそうです。

金野さんの話を聞いて、わたしは紙や本について、もつと知りたくなりました。た。

はるか太古の昔にさかのぼると、人間は洞窟のかべに絵を描^{えが}きました。世界最古の洞窟壁画^{どうくつへきが}は、三万二千年前に描かれたとされています。それ以来人間は、石や粘土^{ねんど}や金属、動物の骨や亀^{かめ}の甲羅、竹や布など、ありとあらゆるものに、絵や文字を刻んできました。

②もしかしたら、わたしたち人間とは、情報を保存したり、だれかに伝えた

いという気持ち、強くもつ生き物なのもかもしれませんね。
二千五百年前に、人間にとって大発明がありました。エジプトで、パピルス草のくきを加工して、薄い板状^{いたじょう}にのばした。パピルスが発明されたのです。英語の「paper＝紙」の語源となったものですが、パピルスは「紙」ではありません。

その後、ヨーロッパでは羊の皮をなめした羊皮紙^{ようひし}が長く使われました。この羊皮紙も、紙という文字はついていますが、「紙」ではありません。

初めて「紙」が発明されたのは、二千年前の中国でした。ばらばらにほぐした植物の繊維せんいを水の中で、すのこの上に薄く、平たいらにすくいあげる「紙すき」をして作ったものが、「紙」です。日本で和紙が作られるようになったのは、約千四百年前です。

なんと、日本では、千三百年も前に作られた和紙の古書が、今も大事に保存されています。和紙が、すばらしい命の力をもっていることにおどろかされません。

ヨーロッパでもアジアでも、書物はとても高価で貴重なものでした。本も一冊一冊、ていねいに手づくりされ、美術品のように装飾そうしやくされた本もありました。貴重な書物や本を少しでも長生きさせるために、保存修復士たちが治療をおこなってきました。

(中略)

現在はどうでしょう。木を原料としたパルプ紙が機械で大量に生産され、雑誌やコミック、本さえも、大量消費の中で、読みすてられていく時代です。

さらに、手のひらサイズの電子機器で、本や雑誌、新聞も読むことができる時代になっています。便利で手軽なため、書物の電子書籍化は、これからどんどん進んでいくことでしょう。

では、このまま紙の書物は、姿を消してしまうのでしょうか。

金野さんは、紙本保存修復の経験を通して、書物のデジタル化の流れに危機感をもっています。

「紙の書物が読まれなくなることで、書物を作るために発展してきた印刷や製

本の技術がおとろえてしまうことを、わたしはとても心配しています。さらに紙が使われなくなれば、紙を支える文化もなくなってしまいかもしれません」

和紙の紙すき職人や筆を作る職人たち、そして、和紙の材料となるコウゾやミツマタなどを栽培してくれる人たちが、年ごとに減っていくきびしい状況を、金野さんはひしひしと感じているからです。

今、古書の世界では、東日本大震災という大きな災害があったことで、個人所蔵の古書の重要性が、防災の点からも見直されています。昔の人のなにげない日記や、ちよつとした書きつけ(メモ)や手紙などから、どのぐらいの周期で大きな地震が発生するかまで分析ぶんせきできる例があるからです。

また、昔の人たちが大きな災害のたびに、どんな行動をとってきたかを知ることが、これからのわたしたちの生活にとって、役立つことでしょう。

古書の保存の分野では、古書に書かれた情報を半永久的に保存するために、デジタル画像の中に保存する、デジタルデータ化も進められています。ところがデジタルデータでは、古書の紙がもつ手ざわりや重み、においなど、五感にうったえる質感は再現できません。データは、パソコンなどの機械を通してしか、見るできないからです。

金野さんは、古書の保存修復をしながら、紙の中にふくまれた記憶を、次の時代へのメッセージとして手わたしたいと考えています。

「紙に向きあっていると、その紙がいつ、どんな場所で生まれ、どんなふうに通とってきたかまで想像できるんです。たとえば、紙がすすをたくさんふくんでいるとすると、石炭を燃やした時代の、工業がさかんな地域に置かれた紙で

あることがわかります。ページのはしが手あかで黒くなっていたら、熱心に読まれた本であることがわかります。すでに治療された跡あとがあれば、紙を大事に引きついできた人たちの思いを感じることができます。長い時間を生きのびてきた紙には、現在までの人々の記憶まで残されているのです」

金野さんの言葉から、わたしは、紙がもつ「記憶をつなぐ力」をあらためて知ることができました。

金野さんは、電子書籍にはない、紙で作られた本の魅力みりよくをこんなふうに語ってくれました。

「新しい本を開いたときに、ふわっと顔を打つインクのおい。目で味わう本の形。生まれたてのまつさらな紙をさわったときの、指先の感触。ずしりとくる本の重み。カサリというページをめくるときの、紙の音。紙で作られた本には、体を通して味わう楽しみがたくさんつまっているんです」

さらに金野さんは、本を作る製本家としての体験から、紙で作られた本にこめられた思いを、わたしに教えてくれました。

「紙の本を手を持つと、伝わってくるんです。紙をすいて作った人。その紙から本を作った人。紙や本を作るための道具を作った人。本の表紙やデザインを手がけた人。たくさんの方の思いが、本の中にはこめられているんです」

わたしは金野さんの話を聞いて、紙の本に対する感じ方が大きく変わりました。本にこめられた思いや紙の魅力が伝わってくるようで、いとおしく感じられるのです。

わたしたちの読む本とは、もともとは、生き物のようにぬくもりのあるもの

だったのではないのでしょうか。電子書籍化が進む今こそ、紙で作られた本の魅力を、もう一度見つめなおすチャンスなのかもしれませんね。

(堀米薫『思い出をレスキューせよ！』『記憶をつなぐ被災地の紙本・書籍保存修復士』より)

なお、本文には省略等があります。

〔注〕

なめた …… 動物の皮や毛を、処理してやわらかくした

半永久 …… ほとんど永久に近いこと

〔問題1〕 傍線部①「仕事の名前は、『紙本・書籍保存修復士』ですが、『修

復』ではなく『治療』をしているのです」とありますが、金野さんはどのような思いをこめてこのように言ったのですか。次の「条件」に従って、二文で説明しなさい。なお、**や・や**「**なども**字数に数えます。

〔条件1〕一文目では、『修復』と『治療』の違いを「**く**に対して」という言葉を使って説明すること。

〔条件2〕二文目では、「金野さんは**く**思いをこめている。」という表現を用いて、金野さんの思いを説明すること。

〔条件3〕二文を合わせて、百五十文字以内でまとめること。

〔問題二〕 傍線部②「もしかしたら、わたしたち人間とは、情報を保存した

り、だれかに伝えたいという気持ちをも、強くもつ生き物なのかもしれませ
んね」とありますが、純子さんは、人類の歴史における情報の保存・伝達
の変遷について、次の表・メモにまとめました。次の各問いに答えなさい。

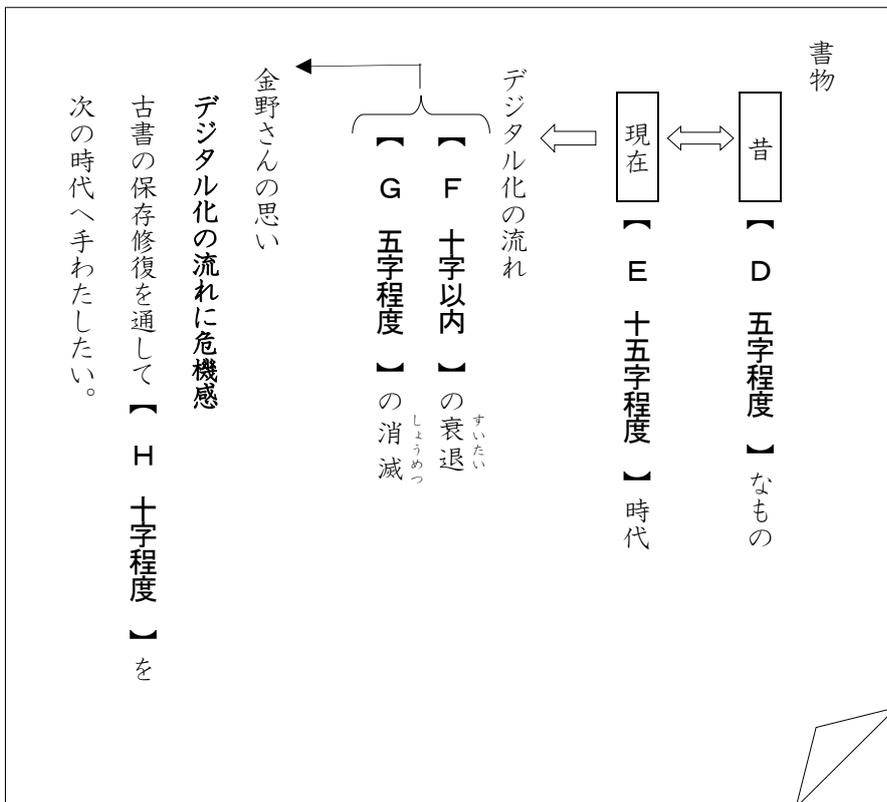
(1) 《純子さんの表》の空欄A・B・Cに入る言葉を、本文中からそれぞれ五字
以内で抜き出しなさい。

《純子さんの表》

時代	保存・伝達方法	国・地域
太古の昔 三万二千年前〜	洞窟壁画 石・粘土・金属・動物の骨・亀 の甲羅・竹・布	
二千五百年前	パピルス	エジプト
	羊皮紙	【A】
二千年前	【B】	中国
【C】	和紙	日本

(2) 純子さんは、昔と現在の書物のあり方と、それにもなる変化、金野さんの
思いを、メモにまとめました。《純子さんのメモ》の空欄D・E・F・G・H
に入る言葉を、本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出しなさい。

《純子さんのメモ》



【問題三】 本文の内容をふまえ、「紙がもつ『記憶をつなぐ力』という題で、

四百字以上五百字以内の作文を書きなさい。書く際は、次の「きまり」にしたがうこと。

【きまり】

- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 段落をかえたときの残りのマス目は、字数として数えます。
- 、や。や 「なども字数に数えます。
- 自分の具体的な体験や経験を示しながら書きます。